

第 1 編 ゾーニングの背景と目的

第 1 章 ゾーニングの背景

1. 1. 社会背景

2020 年 10 月に、国として 2050 年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しました。カーボンニュートラル実現のためには、2030 年までの取り組みが重要であり、2013 年度から 46%の温室効果ガス排出量削減を目標に掲げ、政策を総動員して地域脱炭素の取り組みを加速するとしています。本市も気候変動に伴う自然災害が顕著となる中、こうしたリスクの低減により一層取り組むことが重要であることから、2020 年 12 月に 2050 年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを表明しました。

1. 2. 本市の特性

本市は、本州日本海側唯一の政令指定都市として、高次都市機能を有する大都市である一方、日本一の耕作面積を有し、市街地近傍にはハクチョウをはじめ多くの渡り鳥が飛来する平野や湖沼が広く存在するなど、都市と自然との調和が保たれている都市です。

1. 3. 本市の政策におけるゾーニングの位置づけ

本市では、再生可能エネルギーに関連する主な計画として「新潟市地球温暖化対策実行計画（地域推進版）」を策定し、その取り組みの 1 つとして、本市の特性を活かした太陽光発電、陸上風力発電を主体とした再生可能エネルギー発電事業の推進を掲げています。本ゾーニングマップ並びにゾーニング報告書の内容を基礎資料に、ゼロカーボンシティ実現に向け、再生可能エネルギーの導入目標や現在「短期目標を 2024 年度までに 2013 年度比で 30%削減」、「中期目標を 2030 年度までに 2013 年度比で 40%削減」、「長期目標を 2050 年度までに 2013 年度比で 80%削減」としている二酸化炭素の排出量削減目標、関連する施策目標の見直しを行い、再生可能エネルギーの導入を推進します。

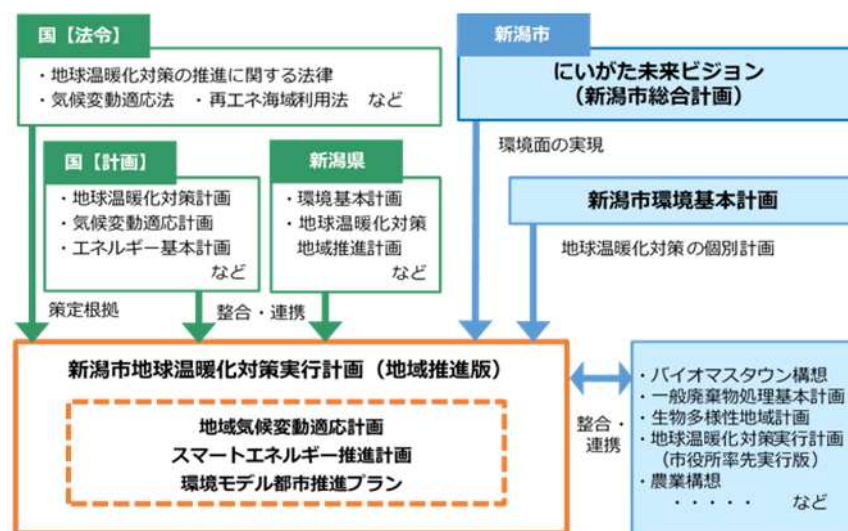


図 1 関連計画

第2章 ゾーニングの目的

2.1. ゾーニングとは

ゾーニングとは、再生可能エネルギーのポテンシャルや土地利用に関する法規制等の資料を収集し、重ね合わせた情報をもとにエリアの区域分けを行い、その結果をゾーニングマップとして地図上に分布を整理することです。

2.2. ゾーニングの考え方

再生可能エネルギーのゾーニングにあたっては、本市の地域特性である日本海に面した海辺の自然や越後平野に広がる田園風景、福島潟・鳥屋野潟・佐潟に代表される豊かな水辺や新津丘陵・角田山など緑豊かな里山などと調和し、共存していくことが望ましい姿であると考えます。

特に、田園地域と都市地域が互いに恵み合い、都市と自然、田園風景等が調和する「再生可能エネルギーによるまちづくり」を進めることにより、本市の新たな価値を創造することになると期待しています。

そこで、再生可能エネルギーのうち、本市にポテンシャルがあると考えられる太陽光と陸上風力による発電について、導入による自然環境や生活環境への影響等を踏まえ、専門家等の意見を聴きながら、本市におけるポテンシャルを明らかにし、今後の導入促進に向けた基礎資料としてゾーニングマップ並びにゾーニング報告書を作成します。

なお、本ゾーニングについては、事業者等が環境に配慮した上で、本市域へ円滑に再生可能エネルギーの導入を促すことを目的としており、設置を義務付けるものではない旨を補足します。